

ポルト市・ヴォスロール村姉妹都市提携 40 周年

及びライデン市姉妹都市提携記念訪問報告書

長崎市議会議員 野 口 達 也

1 所 感 今回の姉妹都市訪問については、スケジュール的にハードな日程であったが、シーボルトハウスでは、魚や植物の標本と絵画は、標本が色あせても絵画によって色がわかるように、一体となって保管されていることや、日本の生活用品である下駄や茶碗などが新品のまま日本から持ち出されていることに驚いた。また、ライデン植物園では、日本から持ち出された植物が長年にわたり栽培されており、当時は、シーボルトが日本に対する第一人者であることが理解できた。

2 訪問概要と所感

【9月25日（火）】

（1）シーボルトハウス

シーボルトハウスは、シーボルトが 1832 年から 1837 年まで居住した家で、シーボルトが日本から持ち帰った収集品を一般に公開している。同ハウスは、シーボルトが 1832 年から 1837 年まで居住した家で、シーボルトが日本から持ち帰った収集品を一般に公開し、陶磁器、金属製品、食器、武器、楽器、屏風、地図、動植物の標本、宗教、考古学の資料など多数の作品が展示されていた。

魚や植物の標本と絵画は、標本が色あせても絵画によって色がわかるように、一体となって保管されていることや、日本の生活用品である下駄や茶碗などが新品のまま日本から持ち出されていることに驚いた。



(2) ライデン大学植物園

ライデン大学植物園の視察を行った。園内には、シーボルトが日本から持ち帰ったイチョウ、カエデ、フジなどの植物が長年にわたり栽培されており、当時は、シーボルトが日本に対する第一人者であることが理解できた。



(3) ライデン市長表敬

ライデン市長を表敬訪問し、アンリ・レンフェリンク市長と田上市長がそれぞれ挨拶を行い、今後ますます交流を深めていくことを誓い合った。

(4) ライデン市長主催昼食会

ライデン市の主催による小型ボート船上での昼食会。小型ボートはライデン市を流れる幅10～20mの運河をゆっくりと運航し、市内の街並みを短時間で広い範囲にわたり見ることができ、運河の街と橋、河畔にはレンガの建物や風車など、美しい景観が大切に保護されていると感じた。

(5) 国立民族学博物館

国立民族学博物館には、日本、韓国やオーストラリアの手工芸品、衣服、家具、美術品、楽器、宗教にまつわるもの等が展示されていた。また、収蔵庫に保存されている川原慶賀の貴重な風景画の原画を見ることができた。

同博物館は、2万点を超すといわれるシーボルトコレクションを中心に1837年に開館しており、初代館長はシーボルトであった。現在、シーボルトコレクションのうち約5千点が保管されており、一部が展示公開されている。なかには、出島の模型など出島復元の貴重な資料となっているものもある。

(6) よさこい雷電との交流

チーム名は「よさこい雷電」。チームは、日本学科を専攻しているライデン大学の7人の生徒であり、ライデン市と雷電を掛け合わせた名前に、ライデン市の日本への親近感を感じた。

【9月26日（水）】

（1）在オランダ日本大使表敬

ハーグの日本大使館では、猪俣特命全権大使から日本とオランダとの関係のほか、オランダの経済力や政治情勢などについて詳しい説明をいただいた。

（2）マウリッツハイス美術館

マウリッツハイス美術館は、オランダで最も美しい建物の一つと言われ、フェルメールやレンブラントなどオランダ絵画の黄金期をなす世界的に有名なコレクションをたくさん所蔵している。

代表的な作品である、フェルメールの「真珠の首飾りの少女」、「デルフトの眺望」、レンブラントの「テュルプ博士の解剖学講義」、ポッテルの「雄牛」などが展示されていた。



【9月27（木）】

（1）国立自然史博物館

1793年に創立したフランス国立自然史博物館は、広大な敷地内に植物園、動物園と3つの展示館を有している。

オランダ・ライデン市のナチュラリス生物多様性センターがヨーロッパ各地で行っている恐竜展「UN T. REX. A. P A R I S」が開催されており、同展では、ティラノサウルスの化石が展示されていた。同化石はほとんどが残存するものであり、左足部分など一部分が複製されたものであり、唯一、長崎の恐竜博物館へレプリカが有償で送られることになり、長崎の恐竜博物館にとっては、大きなプレゼントとなる。

（2）パリ市内視察

パリ市内にある世界遺産のノートルダム大聖堂、コンシェルジュリー、サント・シャペル及び凱旋門とエッフェル塔を視察。（凱旋門とエッフェル塔は車窓から視察）

ノートルダム大聖堂は、初期ゴシック建築を代表する1225年に完成した建物で、ローマ・カトリック教会の大聖堂である。ノートルダムとは、「我らが貴婦人」という意味で、聖母マリアのことを指す。

コンシェルジュリーは、王の宮殿として建てられ、10世紀から14世紀にかけて使用された後、1370年から牢獄として使用され、1793年にはマリー・アントワネットが投獄されている。

サント・シャペルは、「聖なる礼拝堂」という意味で、ルイ9世（聖ルイ）が1239年から収集し始めた茨の冠や十字架の木片などのキリストの聖遺物を納めるために建設を命じたゴシック建築の教会堂で、1248年に完成している。

ヨーロッパは石作りのため、ほとんどが当時のまま保存・活用されており、日本の木造りとの違いはあるものの、当時の建設の技術力の高さを感じた。

（3）在仏長崎県人会との夕食会

在仏長崎県人会との夕食会では、これまでの苦労や今後の交流について意見交換し、親睦を深めた。

【9月28日（金）】

（1）ヴォスロール村長表敬訪問、姉妹都市提携40周年調印式、昼食会

ヴォスロール村では、ブノワ・デムラン村長をはじめ多くの村民の出迎えを受けた。姉妹都市提携40周年を記念し、調印式を行ない、調印式の後、同村主催の昼食会では、同村の村民、長崎市の公式訪問団、市民団、経済団など多くの人々が交流を深めた。

（2）ヴォスロール村

昼食会の後、村内の農家、聖オバン教会、ド・ロ神父の家族の墓の視察を行った。

りんご園やシードル（りんごから作ったスパークリングワイン）の工場では、ヴォスロール村の人は水よりもシードルを飲む習慣があるとの話を聞き、りんごは落ちたりりんごを収穫することに驚いた。

聖オバン教会は、12世紀に建てられたロマネスク様式の教会で同村のシンボルとなっている。同教会の敷地には、ド・ロ神父の父親の両親とその家族の墓があり、神父の子孫の方と、私がつけていた「長崎のハト」バッチを交換した。



ド・ロ神父の子孫と

（3）「平和の道」遊歩道開通式

ヴォスロール村と長崎市の姉妹都市提携40周年の記念事業である「平和の道」遊歩道の開通式に出席。遊歩道は街につながる道として利用される。

（4）ヴォスロール村主催夕食会

ヴォスロール村主催の夕食会では、デムラン村長と田上市長の挨拶の後、同村の村民や周辺自治体の関係者や住民の多くの方達と、長崎市の公式訪問団、市民団、経済団その他関係団体等の方達が意見を交わし、歌や演奏などにより、さらなる交流を深めることができた。

【9月29日（土）】

（1）在ポルトガル日本大使表敬

リスボンの日本大使館を訪問し、新美特命全権大使と日本とポルトガル、長崎市とポルト市の関係や交流等について意見交換した後、同大使館主催の夕食会が行われた。日本を離れて6日目。久々の日本料理に感無量。

【9月30日（日）】

（1）リスボン市内視察

リスボン市内にある世界遺産のベレンの塔、発見のモニュメント及びジェロニモス修道院を視察した。

ベレンの塔は、16世紀にマヌエル1世によってヴァスコ・ダ・ガマの世界一周の偉業を記念して建造され、テージョ川の船の出入りを監視することを目的とする要塞となっている。

発見のモニュメントは、大航海時代を記念した記念碑で、52メートルの高さのコンクリート製で、キャラベル船の船首の曲線に似せて1940年ころに制作され、エンリケ航海王子没後500年の記念行事として1960年にコンクリートで再制作されている。像の先頭はエンリケ航海王子で、王子が川を見つめ、王子の後方に、その他の同時代の探検家、芸術家・科学者・地図制作者・宣教師らの像が並んでいる。

ジェロニモス修道院は、ヴァスコ・ダ・ガマによるインド航路開拓および、エンリケ航海王子の偉業を称え、1502年に大航海時代の富をつぎ込んでマヌエル1世によって着工され、1511年に回廊などの大部分が完成したものの、その後、マヌエル1世の死やスペインとポルトガルの同君連合による中断等もあり、最終的な完成には300年ほどかかっている。



発見のモニュメント

【10月1日（月）】

（1）ポルト市内視察

ポルト市内では、テイラー社のワインセラー、ドン・ルイス1世橋、レロイ・イルマオン書店を視察し、旧市街地では路面電車の体験乗車を行った。

テイラー社では、無数の木樽がきれいに並べられワインが熟成されていたが、生産・醸造はドロウ河の上流で行われ、河口では輸出用のワインセラーが建設・稼働している。

ドン・ルイス1世橋は、ドウロ河に架かる道路と鉄道の併用橋。世界遺産「ポルト歴史地区」に含まれている。同橋は、幅8m、地上高45mの二重構造で、上層の橋は歩行者と電車が通り、下層の橋は歩行者と自動車を通る構造となっている。

レロイ・イルマオン書店は、美しい書店として世界的に有名で観光客を含め多くの客で賑わっている。同書店の1階と2階を繋ぐ階段は、「天国への階段」と呼ばれ、同書店が美しい書店と呼ばれる一要因となっている。

ポルト歴史地区は世界遺産に登録され、改築中の建物が多くあったが、内部は近代化されているものの、外観はそのまま利用するという、街の風景を大切に保存する工夫が見られた。

（2）ポルト市長表敬

ポルト市長を表敬訪問し、今後ますます交流を深めていくことを誓い合った。

（3）ヒロシマ・ナガサキ原爆展開幕式

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館主催のヒロシマ・ナガサキ原爆展（ポルト長崎姉妹都市提携40周年記念展示会）の開幕式に出席、原爆被爆に関する資料の見学を行った。

（4）Pray for Peace 美術展開幕式

Pray for Peace 展実行委員会主催のPray for Peace 美術展（長崎・ポルト姉妹都市提携40周年記念現代美術交流展）開幕式に出席、展示作品を見学した。

同美術展では、長崎市とポルト市の姉妹都市提携40周年を記念し、両都市の児童画とアーティストの現代美術作品が展示されていた。